SUSTAINABLE HEALTHY CITY

ツナガル、ヒロガル

おおぶニックなまちづくり

有機農業を起点とした、地域づくり

愛知県大府市

2026.10.30

今日の説明ポイント



大府市公式マスコットキャラクター
おぶちゃん

1. ほぼゼロからの４ステップ
2. 大府市は、まだ発展途上（課題と今後）
3. 有機農業で地域が変わる

大阪府？ いいえ、大府市（おおぶし）です。

- 市制施行：昭和45(1970)年
- 人　　口：約93,000人 (令和8年8月末)
- 面　　積：33.67 ㎢
- 耕地面積：6.8 ㎢(680ha）→市面積の20%
（令和7年度）





【大府市の農業の特徴】
- **都市近郊農業**：名古屋市に隣接し、住宅地と農地が混在
- **県内1位のぶどう**：栽培面積･産出額ともに愛知県トップ
- **多彩な品目**：水稲や果樹、タマネギなどの露地野菜も豊富

将来都市像　**いつまでも住み続けたい サスティナブル健康都市 おおぶ**

有機農業に取り組むキッカケ

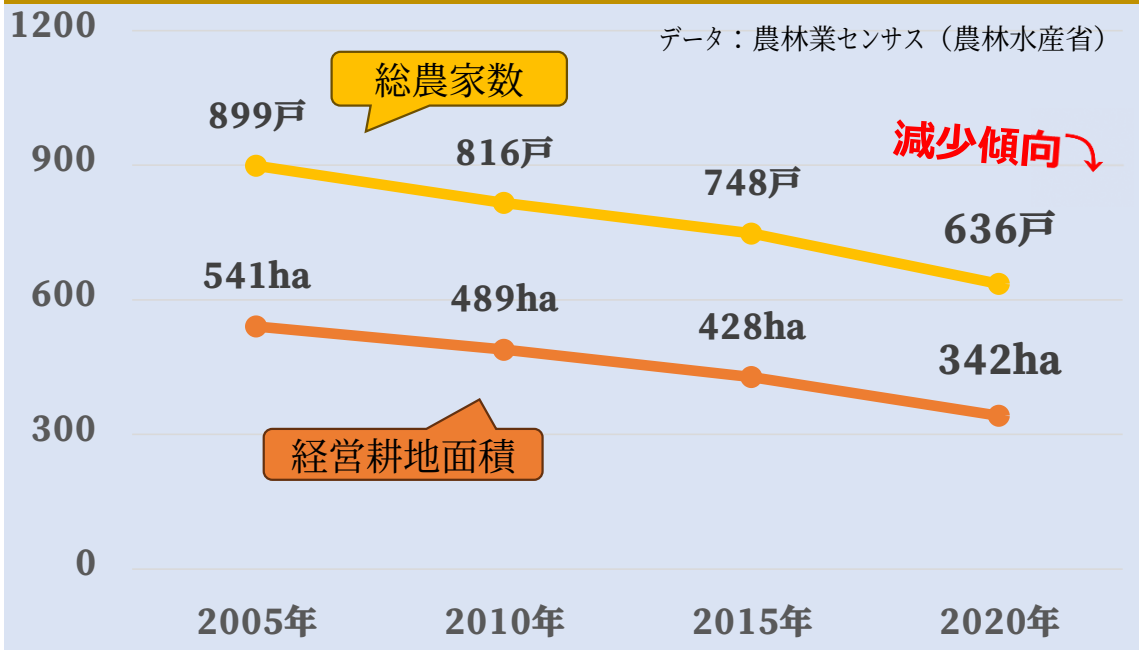
ゼロカーボンシティ宣言



2021年1月当時の様子

農業でも環境負荷低減の取組を進めたい！

減少する農業者・耕地面積



都市近郊の小さい農地でも収益性が高くなる取組が必要

そのような中…　2021年5月に「**みどりの食料システム戦略**」策定　**→農業政策は環境配慮にシフト**

環境負荷低減と**農産物の価値向上**の両立を図る「**有機農業**」は、市が目指す方向性にもピッタリ

ただし…市内で有機農業？やっている人いる？　⇒　有機農業に取り組む農業者は「**ほぼゼロ**」でした

有機農業のヒロガリのハジマリ

ほぼゼロだった状態から、なぜ「ヒロガリ」が生まれたのか…？

それは、地域の食・農に関わるヒトの「想い」と「願い」があったから。

こどもたちに、“地産地消”の給食を！
食べる側も農業を支え、つくることに関わらないと！



一般社団法人
Farm to Table代表
望月　雅美

有機給食の協力要請

市民活動を支援

農家の生まれ。　自身の経験から、人にも、
土にも、地球にもやさしい農業を広めたい！



有機農業のプレイヤーを
増やせないか！？

大府市　農業振興課
寺島　晴彦

押しの強い

有機転換の働きかけ

作業を手伝うから！！

代々続く地域の農業、しかし、続けられない現実…
そんな農業の未来を変えていきたい

時代の流れは環境に配慮した農業と感じていたが、リスクを考えると踏み出せない

米生産者/大府市農業委員
本田　貴士



JA青年部

地域農業のつながり

給食提供の働きかけ

給食配達するから！！

民間企業から農業者に！？
想いは、地球環境を考えた農業をやってみたい！

自然栽培農業者/カフェ経営
杉山　修一



就農時から営農を支援

相互に職員派遣
（農水省との接点）

東海農政局

ほぼゼロからの４ステップ

まずは
①仲間づくり
おおぶニックのWA

仲間を増やす
②担い手づくり


続けるための
③販路づくり


ツナガル、ヒロガル
④地域づくり

オーガニックビレッジ



①まずは「仲間づくり」から

『おおぶニックのWA（わ）』の設立（2023年）

おおぶニックとは・・・
「大府市」と「オーガニック」を組み合わせて作った愛称

大府市 ⟷ 愛知県・JAあいち知多ほか

連携

おおぶニックのWA

おおぶニックのWA事務局

水稲
有機農業実践者/
新規参入者/有機転換者

野菜
有機農業実践者/
新規参入者/有機転換者

生産者

市民団体
生産者支援/加工品開発/食育
Farm to Table

おおぶニックのWA 主なメンバー



おおぶニックのWA代表/野菜リーダー/
自然栽培農業者/カフェ経営
杉山　修一



おおぶニックのWA副代表/水稲リーダー/
米生産者/大府市農業委員
本田　貴士



生産者支援/
一般社団法人　Farm to Table代表
望月　雅美

おおぶニックのWA 生産者の推移

	2023年度	2026年度
水稲	3名(1.4ha) →	7名(7.3ha)
野菜	3名(0.6ha) →	20名(3.8ha)

②仲間を増やす「担い手づくり」

有機農業担い手育成講座の開催

- 2023年から**大府市独自で講座を開講**（R8で4期目）
- １年間を通して野菜の栽培技術を市内の研修ほ場で学ぶ
  ⇒ 毎週土曜日、ほぼ1年間ミッチリ実習



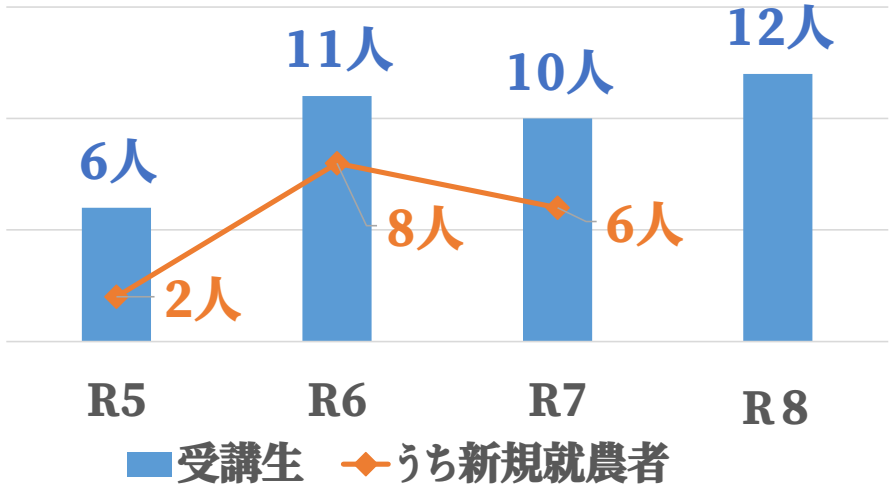


- マルシェでの販売実習、先進農家の視察も実施
  ⇒ 就農を見据え、経営感覚も学ぶ

農業として続けていくにはどうするか



【受講実績】



講座の実績（4年間）

受 講 生　39人

うち就農者　16人　※就農者は兼業農家も含む

講座の開催により、**有機農業者（仲間）が増えた！ ＝ 取組面積も拡大**

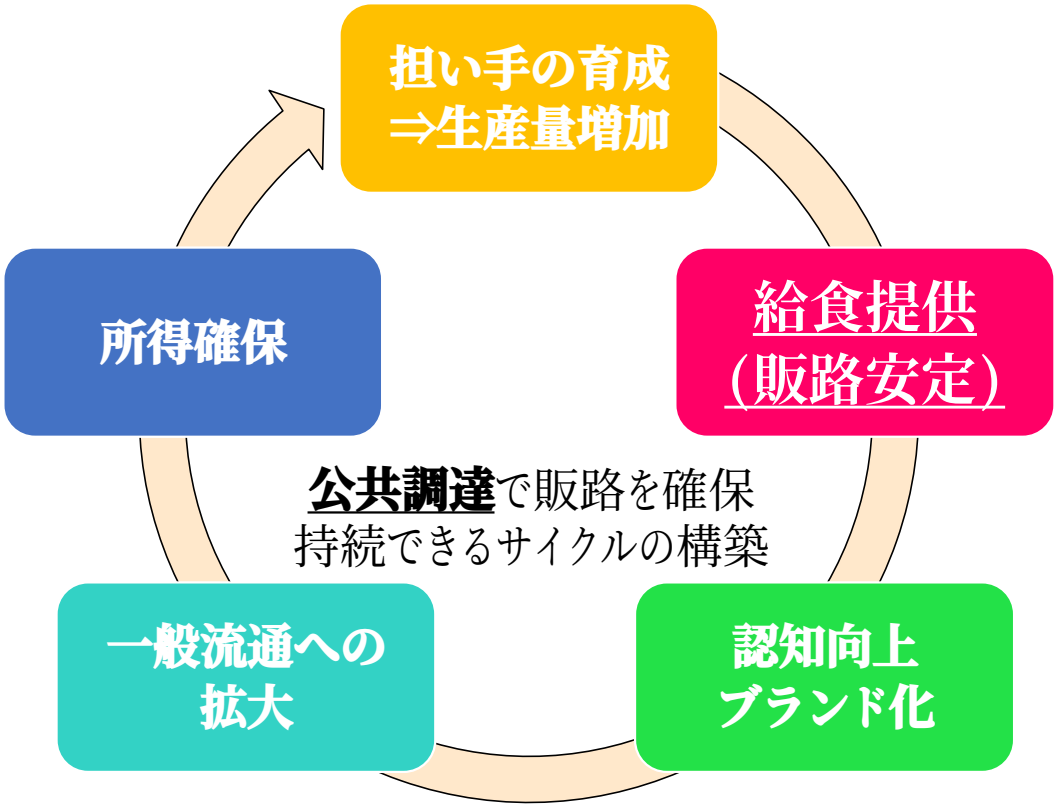
③続けるための「販路づくり」

保育園･学校給食での有機農産物利用

- 有機農業で栽培した農産物の**安定的な販路と所得確保**のため、**給食提供を拡大**
- 給食提供により、**こどもたちが地元で採れた農産物に愛着を持ち、 郷土愛を育む**







公立保育園9園･1,089名、小中学校13校･8,421名（R7おおぶの統計より）
給食方式は、自園･自校式（知多半島で大府だけ！温かくておいしいと評判）

給食提供が目的ではなく、**農業者の所得確保を支える仕組み**として考える

給食提供のフロー（野菜編）

『給食提供のメリット』
・就農者の販路確保
・こどもたちに食べてもらうことは「やる気」に直結！

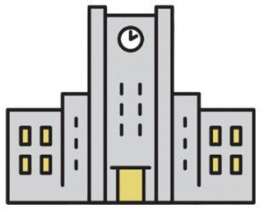
野菜生産者メンバー





数量調整
品質確認
売上分配

食材発注



学校



保育園

配達依頼

配達

『グループ化のメリット』
共同出荷により、学校などが
求める量を協力して確保！

『市民団体の支援』
食材配達を市民団体が支援
農業者は生産に集中！

援農・支援

希望に応じて
仲間入り

Farm to Table



『農政担当で予算化』
地産地消推進として農政担当で予算化
教育委員会・学校からの理解が得やすい

栽培指導

費用請求・支払



市役所（農政担当）



担い手育成講座委託

講座受講生

④官民連携で「地域づくり」

2024年11月22日に関係者とともに 「オーガニックビレッジ」を宣言！

オーガニックビレッジ宣言を機に、有機農業で栽培した米を**「おおぶニック学校給食米」として ネーミングし、大府のお米のブランド化**を推進



「おおぶニック学校給食米」



宣言式での記念撮影

地域の人財と限りある資源を活用した官民連携での有機農業の取組

国の補助事業は大変助かりました



2023年　**オーガニック産地育成事業**

⇒ 担い手育成講座の開講など、取組スタート時に活用

2024年～　**みどりの食料システム戦略推進交付金** ※有機農業産地づくり推進（有機農業拠点創出･加速化事業）
※グリーンな栽培体系への転換サポート

⇒ 活用の選択肢が広く、自治体や地域の創意工夫で使える事業でした

⇒ 事業終了後の更なる伴走支援があると助かります

2024年～　**環境保全型農業直接支払交付金**　⇒ 継続的な支援として有効

＋大府市で独自加算（3,500円/10a）

国の補助事業も有効活用　⇒　自治体が使いやすい＝取組がヒロガル

市民が（かなり）元気で、有機農業がヒロガル

市民主体で有機農業を広める取組へ

一般社団法人 **Farm to Table** ～農と食をつなぐ～ との協働事業の展開

- **消費者でも有機農業で米づくりができる！**
  体験イベントの開催・ガチで米づくりを実践！
  自分たちで米づくりを実践し、生産者の苦労などを知る。
  プロじゃなくてもできる！　⇒　有機農業に取り組むきっかけづくりの創出
- **農業者に、有機農業を始めてもらう！続けてもらう！**
  収穫や除草作業などの援農ボランティア活動の企画・実施
  ⇒　農業者を助けるとともに、消費者との距離を近づけていく

生産者の想いを知り、「食」について考えるきっかけにしていきたい

～3人の母親の小さな願いから始まった市民活動～

その他にも、
- 給食食材の配達、保護者へのPRチラシの作成
- 大豆の栽培から味噌づくりまでを学んで実践する活動
- 水田を使った「どろんこ運動会」（観光資源として期待）
- **お米作りの盆踊り「やろマイ音頭」の創作　→米づくりの大切さを盆踊りにして普及**



体験イベント





盆踊り



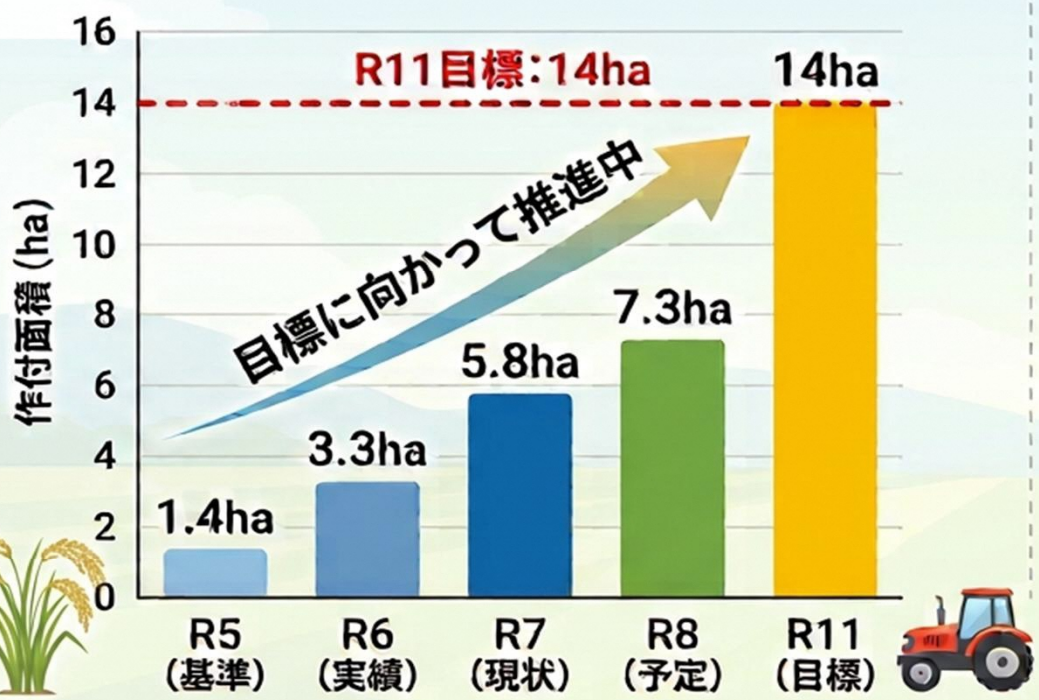
援農ボランティア



市民の力で　農業者と消費者がツナガって　ヒロガって

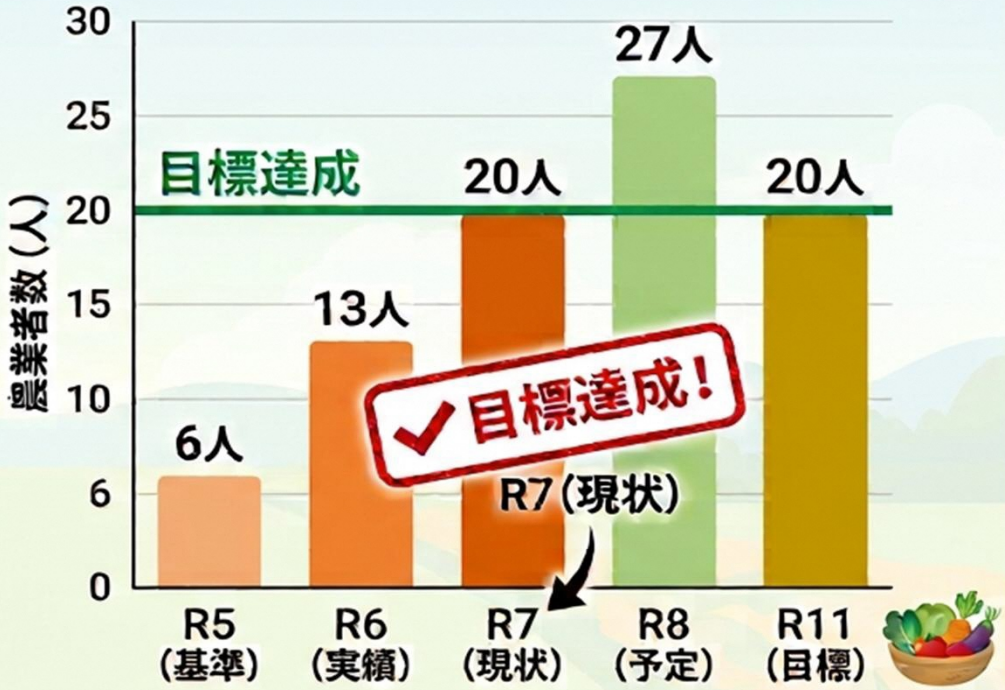
有機農業実施計画の成果目標と現状

① 有機農業による作付面積（水稲）



着実に目標へ向かって成長しています。

② 有機農業者数（水稲＋野菜）



R7に目標を早期達成！さらに拡大中。

まだまだ変わる地域のこれから

地域の農業を、持続可能なものへ

1 「みえるらべる」の取得推進

- ✓ 有機・慣行の両輪で環境にやさしい農業に取り組むため、「みえるらべる」の取得を推進（ｱｳﾄﾘｰﾁ活動・伴走支援）
- ✓ 市内で10名・14品目で取得
  ※2026年4月末時点



2 地域循環型農業の推進

- ✓ 寄附された農地で実証実験
- ✓ 地域資源の活用により、生産コストを下げ、有機農産物をより身近なものに



土づくり
栽培実証



3 “たね”循環プロジェクトの実施

- ✓ あいち在来種保存会・至学館大学と連携
- ✓ 地域の伝統野菜の採種・保存・継承体制を整え、次世代へつなぐ



地域とのつながりを、さらに広げる

4 有機農業×フェアトレード

こどもたちに、美しい未来を
FAIR TRADE TOWN OBU

- ✓ 2026年、全国8都市目のフェアトレードタウンに認定
- ✓ 有機農業とフェアトレードをテーマとしたマルシェを開催
  ⇒ 広く取組をPR



5 -スタートアップ企業と連携- 企業向け田んぼオーナー制度

- ✓ スタートアップ企業と連携し、企業の福利厚生や体験型プログラムを開発
- ✓ 企業向け田んぼオーナー制度の導入による販路の拡大



6 有機農業×スポーツ 地元企業と連携したPR

- ✓ 愛三工業株式会社に所属するスポーツ選手と連携
- ✓ 選手による農業体験・給食提供時の学校訪問、米のコラボパッケージ作成



有機農業を「点」で終わらせず、地域全体へ

——— みんなで支え合い、持続可能な地域農業の未来へ ———

大府市の有機農業は、まだ発展途上です

発生している課題	今後の取組	
1．農地の確保 → 有機農業に適した農地が少ない	◆有機ほ場のゾーニング･特定区域設定 →「おおぶ有機の郷（さと）」構想	
2．流通･集荷体制の強化 → 流通（運搬）に携わる人が不足 → 兼業が多い＝集荷作業場所なし → 猛暑の影響＝冷蔵保管設備なし	◆ＪＡや市場との協力体制の確立 ◆集荷作業場や冷蔵設備整備への支援	
3．販路の更なる拡大 → 給食以外の販路の開拓	◆「おおぶニック」をブランド化 ◆マルシェなどのイベント開催	
4．財源の確保･仕組みづくり → 継続支援･市民への理解醸成	◆民間資金の活用･企業とのマッチング （オーナー制、ＣＳＲなど）	

課題を一つずつ解決し、持続可能な仕組みへ

まとめ「有機農業で地域が変わる」

農業だけでない、地域全体が変わり始める



有機農業の推進を始めたときは…

環境負荷低減、生物多様性の保全、農業者の所得向上、
食料安全保障の強化　を目指していた。

続けた結果…

元気な（元気すぎる）市民が現れた　・・・　**農業者と消費者の距離が近づく**

担い手が、思った以上に増えた　・・・　**有機農業を志向する人は多い、そして集まってくる**

まちの魅力づくり につながった　・・・　**選ばれる都市、地域のブランド価値の向上**

有機農業の取り組みをきっかけに、様々な人が「**ツナガル**」、そして取り組みが「**ヒロガル**」ことで、
魅力あふれる農業と地域づくり！　⇒　これが私たちの進める　「**おおぶニックなまちづくり**」**です**

Thank you so much for your kind attention.

SUSTAINABLE HEALTHY CITY

ほぼゼロから、ひとつずつ。
人がツナガリ、想いがツナガリ、未来へヒロガル。
おおぶニックなまちづくり。

おおぶニックのWA

@OBUNIC_NO_WA

Farm to Table～農と食をつなぐ～

@FARM.TO.TABLE.OBU

大府市公式

OBU_CITY_OFFICIAL

SUSTAINABLE HEALTHY CITY

大府市の情報はＳＮＳで随時発信中　　ぜひ、インスタフォローをお願いします！